

<p>6. 事業内容</p>	<p>1. 研修 実践的かつ環境保全型の農業技術習得を目指したカリキュラムを提供し、人材（技術者・農家）の育成を目指している。</p> <p>【若手技術者研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象：農学部を5年以内に卒業した若手技術者20名。 ・期間：10ヶ月間（理論348時間、実技452時間）。 ・カリキュラム：水資源、環境・土壌管理、栽培、病害虫、食品、畜産、農業政策およびプロジェクト運営管理を網羅した39科目。 ・2年次カリキュラムとの違い： <ol style="list-style-type: none"> ① ガザ内で需要の高い作物に関する科目時間数が4時間ずつ増加。 ② 技術移転方法等、農業普及技術科目が40時間増加。 この科目については、需要が非常に高いことより、すでに農業普及に従事している技術者（5～10名程度）にも研修参加の機会を与える。 ④ 英語で学ぶ農業科目(Agriculture in English、28時間)を新設。 ⑤ 実践的な技術の習得を目的としたグループ研究をナキール農場で実施。 <p>【農家研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象：ガザ地区北部、中部、南部地域の農家60名（各地域20名/回）。 ・期間：3ヶ月間（理論60時間、実技84時間）、3回実施。 ・カリキュラム：水資源、環境・土壌管理、栽培、病害虫および農業一般に関する内容を網羅した15科目。 <p>2. 育苗 小規模農家や紛争被害を受けた農家、および農業技術の導入に熱心な農家を支援してガザの農業セクター復興に寄与することを目指している。</p> <p>【苗木生産と配布】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜と果樹苗木の育苗および配布を実施。 ・質量共に優れた農作物をつくるために「接木」した苗木の増産および配布を実施。 ・農家や育苗業者への新技術の普及を目的とした「展示農場」としてのナキール農場（温室・露地）の活用。 <ol style="list-style-type: none"> ①接木した苗木の育苗・栽培を実施。 ②高収量や耐病性の高い新規作物の育苗・栽培を実施。 ③消費者へのプロモーションの一環としてレストランやホテル、小売店で収穫物を利用してもらう。また、女性農家グループに食品加工してもらう。 <p>【研修活動への活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修活動の実習施設としてナキール農場（温室・露地）を活用。 <p>【短期日本人専門家派遣】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接木の専門家1名を1週間ほどガザへ派遣して講義の実施およびナキール農
----------------	---

場での技術指導を実施。講義対象者は若手技術者研修生、農家研修生および育苗業者。

【日本での専門家会議】

- ・農業普及の手法である「展示圃場」について、先進的に取り組んでいる日本の現場踏査を通じて専門家と当該事業への適用化を検討。

3. 水利用

水資源の不足と水質悪化が深刻化している状況を改善するため、農業における水利用のあり方の知識と実践を農民に提供して、環境に配慮した農業技術の普及を目指している。

【家庭雑排水の再利用】

- ・2年次に設置した家庭雑排水再利用施設のモニタリングを継続。
- ・新規裨益者9農家を対象にした家庭雑排水再利用施設を設置。
- ・新しい取り組みとして、家庭雑排水再利用に関する啓蒙活動を実施。

【テンシオメーターの導入】

- ・2年次同様、テンシオメーター（適切な灌漑を行うために土壌水分量を計測する簡易型機材）を研修受講者や地域の篤農家へ配布して節水栽培に関する技術指導を実施。導入数は、各裨益者2本ずつ、合計140本。

【下水処理水の再利用】（新規）

- ・ガザ地区における下水処理水利用は果樹栽培にしか許可されていないため、果樹栽培が盛んなガザ北部 Beit Hanun 地域の果樹農家を対象にした下水処理水再利用に関する啓蒙活動を実施。
- ・活動内容は、下水処理水再利用に係る講義（ワークショップ）や広報活動、ガザ地区内の既存プロジェクトサイトの視察。

【短期日本人専門家派遣】

- ・下水処理水の専門家1名を1週間ほどガザへ派遣して講義を実施。対象者は若手技術者研修生、農家研修生および家庭雑排水・下水処理水再利用活動の裨益農家。

4. 普及

当該事業実施を通じて得られた適正技術、知識および経験を小冊子にまとめて普及させることによりガザ農業の底上げを目指している。

【小冊子の作成】（新規）

- ・接木（野菜・果樹）に関する冊子を1,000部作成し、当該事業の関係者やガザ内の農業団体（育苗業者や農家組合等）に接木技術を普及させる。
- ・若手技術者および農家研修用の教材を各150部作成し、研修生や農業関係団体へ配布し、継続した利用に供する。